



原価計算 新訂版

改訂教科書のご案内

横浜市立横浜商業高等学校教諭 粕谷 和生

1. 教科書の特長

新訂版においても教科書の特長は、次の表のとおり変わりません。

表現	図解・イラストを多用したわかりやすい表現
構成	伝統的かつ標準的な理論構成
検定試験	全商および日商簿記検定対策の決定版

2. 図解やイラストによる理解

本書の最大の特長として、図解やイラストの数がとても多いことは、全国の先生方によく知られているところです。ここでは、授業の中で是非活用してほしい図解・イラストベスト3を紹介します。

(1) 工業簿記の基本構造

折り込み3・4の「工業簿記における諸勘定の振替関係」は、初期段階の学習では最も重要なところですが、その理解には10個の例題(p.28-36)にあたらなければならないと、多くの時間を要します。しかし、p.27の製造現場のイラストとp.28の勘定設定図を有効に繋げると、とてもよい流れで学習が可能です。

(2) 部門別個別原価計算の全体像

部門別個別原価計算における個別論点の問題は解けるが、総合問題になるとダメという生徒はかなりの割合でいます。それは部門別個別原価計算の全体像がわかっていないのが原因で、総合問題を解いているうちに、自分が計算手続き全体の中でどの部分をやっているのか、迷子になってしまうからです。

そこでp.120-121にフローチャートと勘定の振替関係図および各種計算表を有機的に配置し、全体像を一覧できる見開きページがあります。まず、全体像を把握し、その後はフローチャートに沿って個別論点の解説をしています。木を見て森を見ずになら

ないように工夫をしています。

(3) 月末仕掛品原価の計算式

第9章の総合原価計算では、月末仕掛品原価の計算式について図解を前面に出して解説をしています。

3. 主体的・対話的で深い学びの充実

新訂版では、巻末のADVANCEに二つのテーマを追加し、主体的・対話的で深い学びをより充実させました。追加テーマの一つである「製造間接費について振り返ろう」では、多くの生徒が持っている製造間接費のイメージに二つの刺激を与えています。

多くの生徒は、「製造間接費とは、個別原価計算を学ぶときに出てくるもので、特定の製品の原価として直接集計することができない原価要素。例として工場消耗品の消費高などがある」と理解しています。「しかし、工場消耗品の消費高が製品別に把握できれば、直接材料費になるのでは？」と最初の刺激を与えています。

二番目の刺激は、標準原価計算における製造間接費についてです。標準原価計算の例題は単一製品の大量生産を前提としていますから、総合原価計算に製造間接費が出てくることになります。個別原価計算だけにしか製造間接費は出てこないと思っている生徒への二つ目の刺激です。

4. 強力なQRコンテンツ

QRコンテンツで例題解説動画を追加し、自学自習に適した教科書にしました。そのほか、確認テスト・定期考査問題・類題プリント・仕訳チェックプリント・主体的に学習に取り組む態度評価プリントなどはWordデータとして準備し、PowerPointの授業展開スライドも、ブラッシュアップしました。